



自治体における自然共生サイト の取り組みについて



令和8年2月
北海道地方環境事務所



1. 自然共生サイトを増やす

- ・**単独申請** 町有林（黒松内町・池田町）動物園（札幌市）
- ・**共同申請**（道内なし）
例：高知県安芸市（森作り 県・企業・森林組合と共同）
- ・**団体申請に地権者、管理者として同意**

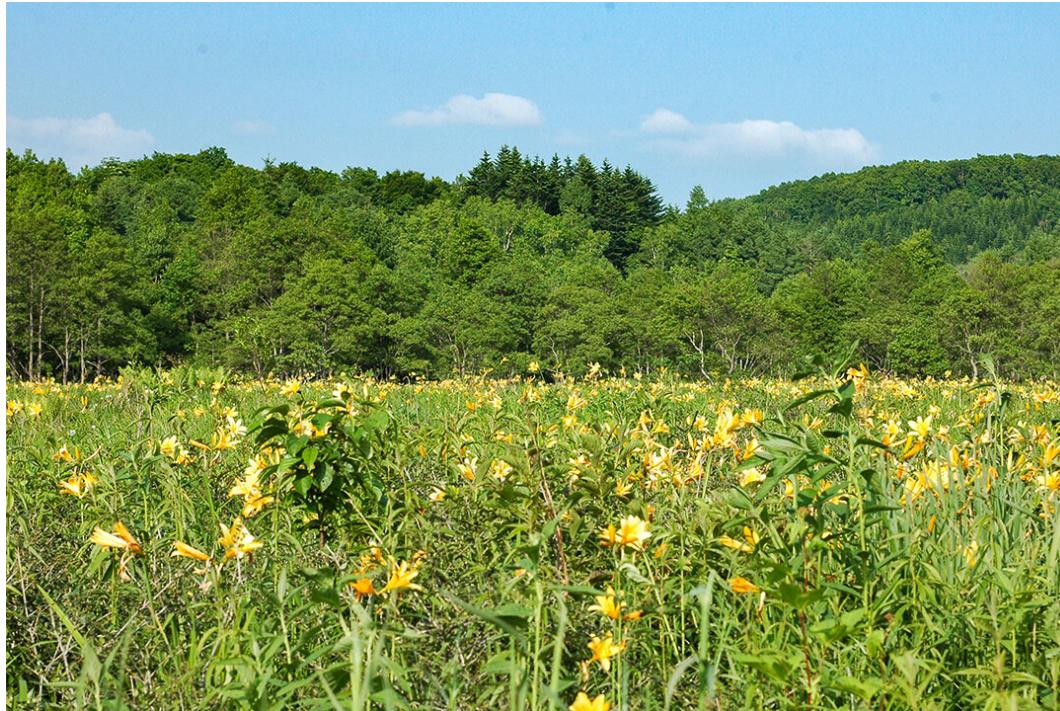
2. 支援をする

- ・**金銭的支援 有識者支援** 例：鳥取県
- ・**つなぎ役（企業→団体支援）** 例：高知県・鳥取県
- ・**担い手育成** 例：札幌市

3. 普及啓発する

- ・**自然共生サイト紹介・観察会（札幌市）**
- ・**生物多様性地域戦略に記載（北海道・札幌市・石狩市・苫小牧市）**
- ・**自然共生サイト申請を促す（札幌市）**

自然共生サイト登録 黒松内町



歌才湿原



添別ブナ林

環境省HPより

自然共生サイト登録 池田町

池田町大森地区町有林

R6 前期【No.04】 サイト名：北海道池田町大森地区町有林

申請者：北海道池田町

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

人工林、天然林の両区域内にてクマゲラ (*Dryocopus martius*) の採餌痕があり、天然林区域においてはヤエガワカンバ (*Betula davurica*) など、環境省レッドリスト及び北海道レッドデータブックに掲載されている動植物の生息が確認された。

【確認された希少種】

2024年4月23日巡視にて生息や利用の痕跡を確認した希少種

クマゲラ (*Dryocopus martius*、天然記念物、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類VU)

ヤエガワカンバ (*Betula davurica*、環境省レッドリスト準絶滅危惧NT)

他、維管束植物 1 種

その他、2021年以降、毎年晚冬期にオオワシ (*Haliaeetus prelagicus*、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類VU) の飛翔する姿を確認している。



写真の説明：人工林内のクマゲラ採餌痕



写真の説明：ヤエガワカンバ

自然共生サイト登録 札幌市

円山動物園の森



ざりがにの沢づくり（子供活動）



森の散策タイム（森のボランティア活動）

円山動物園資料より抜粋

支援 企業と自治体のつなぎ役 高知県



その1 協働の森パートナーズ協定



その3 環境先進企業の皆様への高知県からの「お約束」

高知県では、
協働の森パートナーズ協定を
締結いただいた企業の皆様に
5つのお約束をいたします。

1 毎年度「CO₂吸収証明書」を発行します。

協定森林で間伐により生み出されたCO₂吸収量を、森林調査を実施した上で、高知県協働の森CO₂吸収認証制度に基づき算定し、企業のご希望により「CO₂吸収証書」を発行いたします。発行した吸収証書は、売買・譲渡はできませんが、環境広報活動への活用など幅広くご利用ください。

*自然整備については、「CO₂吸収証書」の発行を希望される企業の担当者にご連絡ください。



2 皆様の森林活動を全力でサポートします。



森の利用方法はアイデア次第。レクリエーションや環境研修フィールドとしての活用だけでなく、スクールホルダーの皆様と地域の交流、企業独自のサービスとの組み合わせなど、可能性はここまで広がります。高知県は、関係市町村と一緒に皆様の活動にふさわしい適地を選定し、オリジナリティあふれる活動をバックアップしています。具体的な活動としては、間伐作業のほか、木工教室や環境学習など多様なメニューをご用意しています。

3 協定森林での取り組みを高知県から全国発信します。



「協働の森 パートナーズ協定」締結企業を、社会を支える環境先進企業として県のホームページなどで紹介します。また、市町村ごとに森林保全活動などについても情報発信します。

【協働の森事業ホームページ】
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030101/kyoudounomori>

4 シンボルロゴの使い道、森の名前は自由です。



「協働の森」シンボルロゴは自由に利用できます。企業のイメージアップや広報にご利用ください。また協定を締結した森林の名称は、企業の皆様に決めていただいています。メッセージ性のある名称、印象深い名称をぜひお考へください。

5 木の名刺台紙をご提供します。



「協働の森 パートナーズ協定」締結企業には、協定を記して木の名刺台紙(2000円)をご提供します。「協働の森の力」への協賛を、多くの方にお伝えください。



高知県HPより抜粋

安芸市流域森づくり構想



流域の命と暮らしを育む
森づくり

安芸市の精神は人間や多様な生き物が生きていくために欠かせない環境をつくり、廢でうまれた水は大地を潤し、河川や海を育みます。また、森林がもたらす恵みは上流と下流に暮らす人の富や豊みの源泉となります。豊かな自然環境と社会的ニーズの両立をかなえる森づくりを目指し、流域の人の手で守り育てています。

取り組む3つのテーマ
安芸市の森づくりが

まちと暮らしの価値を高める
木づかい

近頃で青つ木材は、生活のあらゆるものを作ることができ、人と環境にやさしく持続性と在り方につぐれた素材です。この木の力を發揮どころなく活かすことで、私たちのまちの風景が美しく飾れるものになり、産業や生活のあり方が持続可能になり、街並みあるものになります。そんな無限の可能性を信じ、新たな価値創造ができる木材産業をつくります。

森林と生きる幸せを感じられる
まちづくり

大人も子どもも、女性も男性も、障がいのある人も、だれもが森林を通して学び、遊び、才覚を開花させ自己実現できる。より多くの人が森林の恩恵を受けられ、人とつながり、幸せを実感できるまちへ、森林へのアクセスを開き、その開拓・整備を広げ続けるまちづくりに、多様な人の知恵を書き込みながら取り組みます。

企業による森林整備活動（安芸市）

「Green Gift」プロジェクト(森を守る活動)

高知県・協働の森づくり事業「東京海上日動 未来への森」

東京海上日動は、2009年5月より**「環境先進企業との協働の森づくり」**において、**高知県、安芸市、高知東部森林組合と5年間の「パートナーズ協定」**を締結し、安芸市の森林整備に協賛しています(2024年5月に5年間の協定を更新)。

協定した森林は**「東京海上日動 未来への森」と名付け、グループ会社を含む社員・代理店やその家族が、毎年間伐体験や地元の方々と交流を行う体験ボランティアを実施しています。2025年3月までに計16回のボランティアを実施し、延べ約680名のグループ社員等が参加しました。**参加者からは、「森林を維持・保全していく必要性や、それに対する関係者の努力を知ることができた」「参加者の責任として機会ある毎にこの活動を広めていきたい」等の感想が寄せられました。



東京海上日動
HPより抜粋

自然共生サイト共同申請 高知県安芸市



東山森林公園 申請：東京海上日動 安芸市 高知県東部森林組合 高知県

R6後期 [No.62] サイト名：東山森林公園～高知県安芸市・東京海上日動 未来への森～ 申請者：東京海上日動火災保険株式会社・高知県安芸市・高知東部森林組合・高知県

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは文化的サービスと調整サービスが豊かな場である。毎年間伐体験ボランティアを実施しており森林を維持・保全する必要性等を学ぶ機会を提供している。地域の人々が日常的に利用したり、森林浴イベントが開催されるなどレクリエーションの場・癒しの場を提供している。また、土砂流出防備保安林として防災・減災機能を発揮している。

【主な植生】

サイト内の主な植生は、シイ・カシ二次林、アカマツ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、ウラジロ-コシダ群落、竹林である。（環境省植生図1/2.5万より）

【確認された主な動植物など】

2024年7月31日～8月1日の現地踏査において、以下を含む25種の鳥類（在来種）を確認した。

【鳥類】カツツブリ、キジバト、アオバト、アマツバメ、トビ、コゲラ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメヒヨドリ、ウグイス、メジロ、イソヒヨドリ、キビタキ、イカル、ホオジロ

補足情報として、東山森林公園の整備時の資料(1982年)に、以下の鳥類と哺乳類の記載がある。

【鳥類】トビ、コジュケイ、キジバト、アオゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、スズメ、カケス、カラス、タヒバリ、ジョウビタキ、ツグミ

【哺乳類】イノシシ、ノウサギ、タヌキ、イタチ類、ネズミ類

動植物情報は今後も収集・整理し、モニタリング調査も行い、充実させる方針である。



写真の説明：間伐体験ボランティアの活動の様子



写真の説明：森林浴イベントの様子

自然共生サイト登録 鳥取県



番号	サイト名	申請者名	番号	サイト名	申請者名
1	鳥取県八頭船岡環境保全エリア	一般社団法人 鳥取県地域教育推進局・農事組合法人 八頭船岡農場	10	鳥取県 県有林 (富沢地区)	鳥取県
2	八東ふる里の森	株式会社エルボスケ・鳥取県八頭郡八頭町	11	鳥取県 県有林 (羽衣石地区)	鳥取県
3	鳥取県立大山オオタカの森	鳥取県	12	おさかなをはぐくむ湧水と海を守る森	株式会社ニッスイ
4	南部町の里地里山ビオトープ	一般社団法人里山生物多様性プロジェクト	13	鳥取県 県有林 (大山・東大山地区)	鳥取県
5	ロイヤルシティ大山リゾート 大成池周辺区域	大和ハウス工業株式会社	14	コカ・コーラ ボトラーズジャパン 水源の森ほうき	コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
6	鶴の池・ヨシ池	鳥取県日野郡日野町	15	鳥取県 県有林 (板井原地区)	鳥取県
7	鳥取県 県有林 (浜坂地区)	鳥取県	16	サントリー天然水の森 奥大山	サントリーホールディングス株式会社ステナビリティ 経営推進本部
8	鳥取県 県有林 (海岸砂地 地区)	鳥取県	17	奥大山鏡ヶ成の湿原・草原・森林による同心円状 生態系	大山隠岐国立公園鏡ヶ成保全再生活用協議会
9	鳥取県 県有林 (関金地区)	鳥取県			

とつとり生物多様性推進センターの取り組み

鳥取県生物多様性地域戦略と とつとり生物多様性推進センター

鳥取県の生物多様性を保全し、持続可能な利用に取り組む社会を築くため、『人と自然が共生するとつとり』を戦略の目標とし、実現のための5つの基本行動とその行動計画を定めました。

さまざまな主体がそれぞれの役割を果たして協働して取り組むことが必要です。

人と自然が共生する とつとり



鳥取県では『人と自然が共生するとつとり』の実現に向けて、民産学官が連携しながら、生物多様性の保全・保護の取り組みを進めることを目的として、**とつとり生物多様性推進センター**を開設しました。当センターでは、生きもの情報の収集、生物多様性にかかる情報発信、保全活動における連携・協働・交流の促進、開発行為等における希少野生動植物の保護等を行っています。



生きもの情報の収集

- 希少野生動植物や外来生物、貴重な生態系などの情報を収集・整理します。

情報発信

- 生物多様性の保全活動の情報を県民に発信します。

センターの 取り組み

開発行為等における希少野生動植物の保護

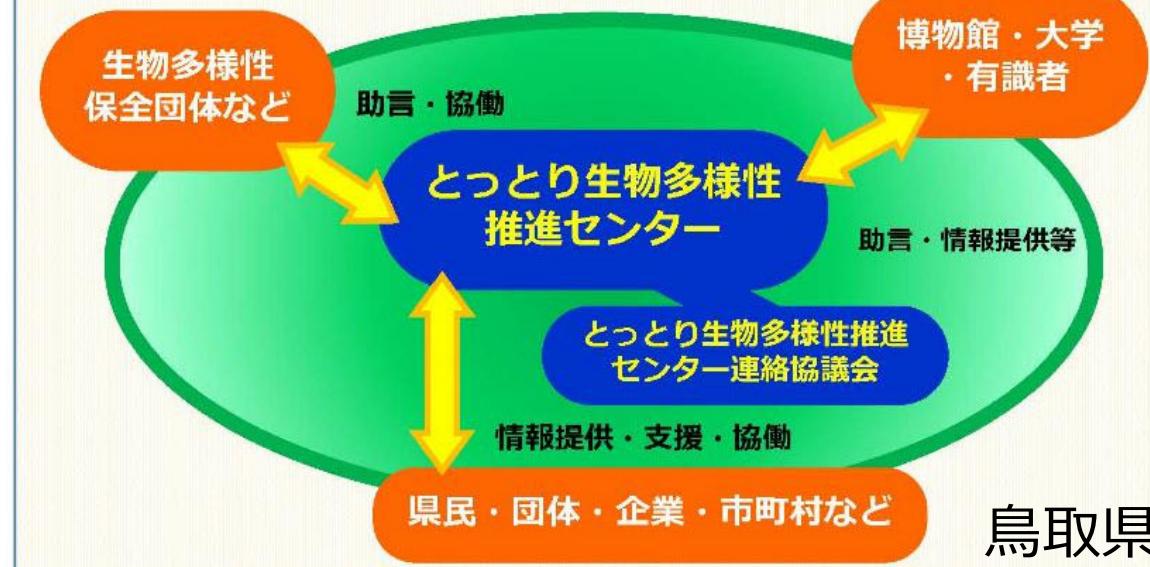
- 収集した生きもの情報により、開発予定地の保全に取り組めるよう情報提供や調整を行います。

連携・協働・交流の促進

- 研究機関や大学、専門家との連携を進めます。
- 専門家や保全に取り組む団体との協力体制をつくり情報交換・交流の機会を提供します。
- 生物多様性の保全に取り組む活動を支援します。



センターの活動体制



鳥取県HPより

自然共生サイト認定支援制度（鳥取県）

鳥取県

自然共生サイト認定・ 地域での生物多様性保全活動の 支援制度

令和5年3月に策定された新たな生物多様性国家戦略において
主要な目標として掲げられた「2030年までに国土の30%を保全
する目標（30by30）」を達成するため、民間企業等と連携した
自然共生サイトの認定促進や生物多様性の保全を図ります。

補助金による支援

●対象者

- ・自然共生サイトの認定を目指す団体
- ・認定を受け活動する団体 等

●対象事業

- ・自然共生サイト申請に係る準備
- ・地域での勉強会、維持管理作業
- ・自然共生サイトのPR
- ・環境教育、レクリエーション 等

マッチングによる支援

- 県と金融機関が連携して支援してほしい地域と支援がしたい企業をマッチング(人的・経済的支援など)

- 地域と支援企業が一体となって自然共生サイトの申請や保全活動へ取り組む

自然共生サイトの制度が変わります！！

地域生物多様性増進法（令和7年4月施行）により、生物多様性の保全が図られている場所を自然共生サイトとして認定する制度から、特定の場所に紐付いた生物多様性を保全する活動の計画を認定する制度に変わります。

<新制度のポイント>

- ・既に生物多様性が豊かな場所を維持する活動に加えて、生物多様性を回復・創出する活動も対象。
- ・生物多様性保全の取組を行う地域の団体等の活動を取りまとめた計画を市町村が作成することが可能。

生物多様性が豊かな場所を維持する活動計画で認定を受けた場所を『自然共生サイト』と呼ぶことが可能



【制度に関するご相談・お問い合わせ先】

鳥取県 生活環境部 自然共生社会局 自然共生課

電話：0857-26-7978 電子メール：shizen-kyousei@pref.tottori.lg.jp

※鳥取県は30by30達成に向けた取り組みを進めるための有志連合
「生物多様性のための30by30アライアンス」に参加しています。

自然共生サイト保全活動推進補助金

自然共生サイトの認定申請を目指す又は認定を受けた団体等
が行う活動に要する経費を支援する補助金です。

対象者

鳥取県内または鳥取県を区域に含む土地等において自然共生
サイトの認定を目指す又は認定を受けた民間事業者、地域住
民組織、N P O法人、市町村等



写真提供：里山生物多様性プロジェクト

対象事業・補助率等

	対象事業	補助要件	補助率	上限額(千円)
①	認定申請に必要な情報の収集（生物の生息状況調査、 土地測量等）、申請書類の作成	計画認定を 目指す者	1/2	1,750
②	認定サイトで実施する生物多様性の保全に資する勉強会、 維持管理作業、モニタリング調査等	認定を 受けた者 または 認定を受けた 場所で活動 する者	1/2	500
	市町村が策定する計画に基づき民間団体が行う上記の取 組		2/3	回復・創出の 取組の場合 1,000
	認定サイトのP R（パンフレット、看板設置等）、認定サイトを 活用して行う環境教育、グリーツーリズム等の地域活性化に 資する取組		1/2	250
	市町村が作成する維持に係る活動計画の対象地において 民間団体が行う上記の取組		2/3	

自然共生サイト企業等連携促進奨励金

県内において自然共生サイトの取組を行う団体等に対して、企業版ふると納税を活用して得た寄
付金を奨励金として交付します。

対象者 以下の対象団体のうち交付を希望する者（※ただし、県内に本拠地を持つ団体に限る）

- ・自然共生サイト保全活動推進事業補助金の活用して計画認定を目指す団体
- ・生物多様性マッチング事業に参画する保全団体
- ・自然共生サイト認定または計画認定を受けた団体 等

交付額

- ①企業が寄付先の団体を指定する場合：寄付金の額を上限として交付
- ②企業が寄付先を指定しない場合：寄付金額を交付対象団体数で按分した額を各団体に交付

※寄付を行う企業が、寄付先の団体を指定できるように、県のHPで奨励金の交付希望団体を公開
します。

制度の詳細については、自然共生課のホームページ を御確認ください。

<https://www.pref.tottori.lg.jp/shizen-kyousei/> （右のQRコードから接続できます）



有識者マッチング制度（鳥取県）

とつとり生物多様性 アドバイザー派遣制度

生物多様性の専門家を派遣します！！

保全活動への
アドバイス
学習・観察会ほか
無料派遣



生物多様性ってなんだろう？

生物多様性とは、多様な環境の中で、生きものそれぞれが豊かな個性とつながりをもつことをいいます。私たちの暮らしはこうした自然や生きものがもたらす恵みにより支えられています。



とつとり生物多様性アドバイザー派遣制度 とは

生物多様性を守るために、豊かにするためにどうしたらよいのかなどへの具体的なアドバイスや、生物多様性について理解を深めるための学習会や講演をする「**とつとり生物多様性アドバイザー**」を、生物多様性に関心のある保全団体・学校・自治会などに派遣するものです。

対象 県内の団体（保全団体・学校・自治会・子供会など）、企業など

内容 生物多様性にかかるアドバイスなど

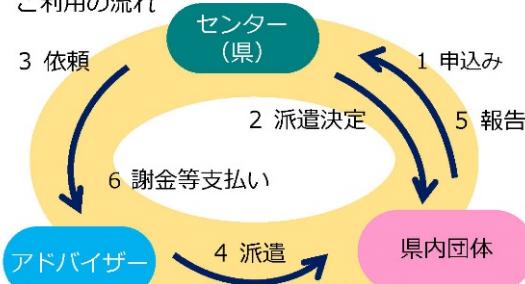
- 保全活動（希少動植物の保護、外来生物の防除など）へのアドバイス
- 講習会、観察会、学校や地域での学習会などの講師
- 普及・啓発に関するアドバイス



お気軽にご相談
ください！

御相談の内容に応じてアドバイザーを派遣し、県が謝金を負担します（非営利活動に限る）。

ご利用の流れ



お問い合わせ窓口

とつとり生物多様性推進センター

鳥取県生活環境部自然共生社会局
自然共生課
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857-26-7978 FAX 0857-26-7561
E-mail shizen-kyousei@pref.tottori.lg.jp



鳥取県HPより

普及啓発 自然共生サイト観察会（マテリアルの森）



生き物観察ニュースレター

自然共生サイト マテリアルの森

実施日 2025年9月6日

自然共生サイトに認定されている「マテリアルの森 手稻山林」において自然観察会を行いました!さまざまな動植物の観察を通じて、「マテリアルの森」の自然への理解を深めるとともに、自然共生サイトが生物多様性の保全に果たす役割についても考えていただく機会になりました。

「マテリアルの森」はどんな森



マテリアルの森は、三菱マテリアル株式会社が手稻区に所有する山林で2023年に自然共生サイトに登録。面積は約1,230haで、北海道で登録されている19箇所で2番目の広さで(2025年度11月時点)、その大きさも特徴の一つです。



森林調査簿上は人工林が約25%を占めますが、植栽後にはうまく育たず、様々な広葉樹が自然に育って、広葉樹林に近い森林になっている人工林もあります(写真右)。

「カッコウの森」キャンプ場

参加者は10名、スタッフも合わせて22名でした。最初に、札幌市から自然共生サイトの取り組みについて、三菱マテリアルの職員からマテリアルの森の概要や森で見られる動植物などについて説明がありました。



沢に近い森の土壤は湿っており、湿った場所を好むハリニレなどの樹種も多く見られます。さらに、礫(レキ)を多く含む土壤のためササが少なく、ハイヌガヤが多い場所も見られます。ただ、エゾシカによるニレ類の樹皮はぎや、ハイヌガヤの被食など、全体的にエゾシカによる森への影響が目立っています。

三樽別川

三樽別川は手稻山を源流とする河川で、急崖と過去の手稻山の山体崩壊によって生じた岩屑などに堆積物のある緩斜面の境界を流れています。大きな岩も多く、上流部の渓流らしい景観が見られます。カッコウの森に隣接していて、散策路が整備されているため、生き物観察を行いました。



三樽別川での生き物観察

最初に川の生き物の採取方法紹介から、参加者もたも網などを使って採集に挑戦しました。短時間ではありましたが、大勢で採集をしたので、多くの水生動物をつかまえることができました。



採集した生き物を持ちより観察

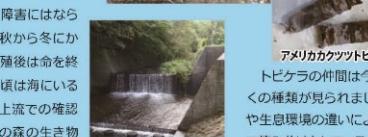


採集や観察の様子

●確認された主な水生動物

魚類: ハナカジカ・ニジマス、甲殻類: モクズガニ

水生昆蟲: フタマジキンカゲロウ・カワゲラの仲間、ムカシントボ・オニヤンマ・モイワサナエ、ヒゲナガカワトビケラ・アメリカカクシトイビケラ・コカツツビケラ・ナガトビケラ・ガガボンの仲間



アメリカカクシトイビケラ



ハナカジカは北海道の渓流河川の代表的な淡水魚です。今回も今年産まれの稚魚がたくさん見つかり、順調に世代交代していることがうかがえました。



今回の観察会の発見の一つが外来種のニジマスです。さと川探検隊の調査でもこれまで下流のみの確認だったそうです。モクズガニと異なり、落差工は越えられないはずですので、なぜ生息するようになったのか気になるところです。

最後にマテリアルの森で行われている取り組みについての説明があり、マテリアルの森での環境に配慮した森林施業についても紹介されました。参加者からも今後の取り組みについての質問が多くあり、自然共生サイトへの関心の高さが伺えました。以下のような意見や質問がありました。

・どんな樹種を伐倒しているの? / 環境保全をより進めいくために今後考えている施策は? / 自然共生サイトのこれまでの記録を残していくことは重要と思うが、データなどは見られる? / この森の自慢は? / 森自体のお話もう少し知りたい! / 是非他の自然共生サイトについても同様にイベントを行ってほしい。

「マテリアルの森 手稻山林」で、今後もこのような活動をする機会がありましたら、ぜひご参加いただければと思います。

★今回のスタッフ

今回の行事は以下のスタッフによって企画・運営しました。

◆主催 札幌市環境局環境共生担当課 坂田・前河・大澤

◆室内スタッフ 三菱マテリアル株式会社 松本・川合・北野 手稻さと川探検隊 鈴木玲・沼田・山本・住田



普及啓発 自然共生サイト観察会（北海道大学）



生き物観察ニュースレター

自然共生サイト 北大札幌キャンパス

実施日 2025年9月20日

自然共生サイトに認定された北大札幌キャンパスを専門家と一緒に歩き、札幌中心部に残る貴重な自然環境の観察をしました!! 大学の先生方からは、大学で取り組むさまざまな保全や自然再生、研究について説明いただきました。

「北大札幌キャンパス」はどんなところ?

札幌キャンパスは、南北約2.4km、東西約1.0km、面積177ヘクタールの広がりがあり、来年150周年を迎えるという長い歴史の中でハリニレなどの縁が豊かで歴史的な建造物と調和した景観を作り出しています。豊平川が作った扇状地の末端にあり、昔はメムと呼ばれる湧き水が流れています。湿潤な場所を好むハリニレが多く生える場所でしたが、現在も理学部の南にはエルム(=ハリニレ)の森があり、胸高直径が2mを超える巨木もあります。キャンパスの北部には恵迪の森や遺跡保存庭園があり、札幌農学校時代の面影を残す森が広がっています。また、再生されたサクシュコトニ川が流れています。キャンパスのうち、施設部分を除いた126ヘクタールが自然共生サイトに登録されています。



中央ローン



大野池



恵迪の森

観察会コース

当日は過ごしやすい陽気に恵まれ、市内に住む親子連れなど25名が参加しました。その中にはさっぽろ生き物さがし2025に参加している方もいました。



スタート地点

「キャンパス南部にある正門をスタートし、①中央ローンからサクシュコトニ川沿いを歩いて工学部南の③大野池に行き、さらにキャンパスの自然環境の核心部である⑤恵迪の森や遺跡保存庭園の中をめぐりました。(約2.7km)。



サクシュコトニ川は湧水の減少により、流れが途絶えていますが、2001年に北大の創基125周年記念事業として札幌市との協働により再生されました。札幌キャンパスの自然環境の新たな象徴となり、水生生物の生息地や縁地をつなぐ役割が期待されています。



観察会の様子

①メアリーさんのハリニレ



正門近くに、新渡戸稟造のメアリー夫人が寄贈したとされるハリニレの巨木があります。1905年に植栽された記録があり、現在の胸高直径は145cmです。衰弱が見られるため、種子から後継の苗を育て、キャンパス内に植栽しています。

②中央ローン(松島先生の解説)



中央ローンは、湧水によって浸食されたすり鉢状の地形が残ります。ここではキャンパスの縁地がもたらすさまざまな生態系サービスについての研究が行われています。

③ハンノキ



中央ローン周辺には、湿地を好むハンノキが生育します。北大キャンパスになる前からもともと生えていたものやその子孫と考えられますが、乾燥化などで減少しています。

④恵迪の森・遺跡保存庭園



恵迪の森・遺跡保存庭園には、ハリニレやエゾイタヤなどからなる森が広がっています。胸高直径が1mを超える巨木も多く、札幌キャンパスの核心部と言えます。



参加者への説明の様子
(木島梨沙子氏撮影)



★参加者の感想・意見

今回の観察会には、これまで北大札幌キャンパスを歩いた経験がなかったという参加者も多く、キャンパスの自然を知ることができてよかったですというご意見がいくつありました(「知らないかった北大の自然を知ることができた」(40代)、「ケイテキの森に初めて入って感動した。」(60代)など)、「興味深かったのは「札幌市との協働でサクシュコトニ川の再生を実現した環境保全の取り組みの話」(60代)など)。同行した北大の研究者から直接解説をしていただいたことも好評でした(「専門家に専門知識を教わることで、解説を聞きながら参加出来たため、学びが多く有意義な時間でした。」(50代)など)。

「北大札幌キャンパス」で、今後もこのような活動をする機会がありましたら、ぜひご参加いただければと思います。

★今回のスタッフ

今回の行事は以下のスタッフによって企画・運営しました。

◆主催 札幌市環境局環境共生担当課 坂田・前河・大澤

◆会場内スタッフ 北海道大学 愛甲・松島・北岡・齊藤ほか

◆企画・進行 (株)さっぽろ自然調査館 丹羽

普及啓発 生物多様性（札幌市）

札幌市HPより

企業のみなさま

団体のみなさま

SAPP_RO

生物多様性 さっぽろ応援宣言 しませんか？

札幌市では、「生物多様性さっぽろ応援宣言企業・団体」を募集しています。
宣言方法は、事業活動や団体の取組の中で、生物多様性に配慮していること、生物多様性を守るために行っていることを宣言項目から選ぶだけ。
宣言をしていただいたみなさんの取組は、札幌市がPRをします。
応援宣言で、みなさんの取組をアピールしてみませんか？

対象は？

- 札幌市内で事業活動を行っている企業（本社、支店、事業所、工場は問いません）と札幌市内で活動している団体（NPO法人、ボランティア団体など）が対象です。

宣言するメリットは？

- 生物多様性さっぽろ応援宣言企業・団体の登録証がもらえます。
- 札幌市のホームページやイベントを通じて、取組のPRができます。
- 宣言制度のロゴマークを名刺や印刷物、ホームページなどに使うことで、取組のPRができます。
- 取組のPRにより、消費者の商品・サービスの優先的な利用や団体会員の増加などが期待できます。

手数料は？

- 手数料は一切かかりません。

宣言する方法は？

- 宣言内容について、宣言シートの宣言項目から選ぶか、オリジナル宣言を記載します。
- 郵送、FAX、Eメール、インターネットの入力フォームで宣言シートを送れば、手続きは完了。
- 後日、札幌市から生物多様性さっぽろ応援宣言企業・団体の登録証をお送ります。



◆生物多様性とは？

地球上には、推定3,000万種もの生き物があり、お互いにつながりながら生きてています。この“生き物どうしのつながり”を表す言葉が「**生物多様性**」です。

企業の事業活動や私たちの暮らしは、水や空気、食材、木材など生物多様性がもたらす様々な恵みに支えられています。その一方で、私たち人間の活動の影響により、1年間に4万種もの生き物が絶滅していると言われています。

失われつつある生物多様性は、温暖化と並ぶ深刻な地球環境問題となっており、その保全と持続可能な利用に向けた取組が必要とされています。

【お問い合わせ先】札幌市環境局環境共生担当課 生物多様性担当

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎12階
Tel:011-211-2879 Fax:011-218-5108 E-mail:biodiversity@city.sapporo.jp



札幌市生物多様性PRキャラクター カッコー先生

札幌市 生物多様性の保全 検索



さっぽろエコメンバー

札幌市長 あて

郵便 〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市環境局環境共生担当課

FAX 011-218-5108

Eメール biodiversity@city.sapporo.jp

インターネット http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/sengen.html

年月日

生物多様性を守るため、次の取組を行うことを宣言します。

※ 宣言項目の□に✓を入れてください。該当する項目がない場合、独自の取組がある場合は「オリジナル宣言項目」欄に記入してください。

企業の宣言項目

- 1 グリーン購入を実践し、森林認証製品など生物多様性に配慮した原材料を調達します
- 2 生物多様性に配慮した商品・サービスを積極的に提供します
- 3 土地の利用や開発では、生物多様性に与える影響を軽減するよう配慮します
- 4 敷地内の緑化やビオオーブの整備など生き物の生息・生育環境を創出します
- 5 外来種の持ち込みに配慮し、在来の生き物の生息・生育環境を守ります
- 6 省エネルギーにより、CO₂の排出を削減します
- 7 エコドライブを実践し、低公害車・低燃費車の活用を進めます
- 8 省資源やリサイクルを進め、廃棄物の発生を抑制します
- 9 地産地消を進め、地域の食材や木材などを積極的に利用します
- 10 観光を通じて、地域の自然環境や伝統・文化の魅力を伝えます
- 11 商品・サービスを通じて、生物多様性の保全活動を支援します
- 12 生物多様性に関する取組について、積極的に情報を発信します
- 13 従業員の環境教育により、生物多様性保全に対する意識を向上します
- 14 地域の自然環境や生き物の保全に貢献します
- 15 生物多様性の保全に取り組む地域住民やNGO、NPOなどの連携を進めます

«オリジナル宣言項目»

団体の宣言項目

- 1 生き物の生息・生育環境を守ります
- 2 希少な生き物を守ります
- 3 外来種の駆除や普及啓発を行います
- 4 緑を守り育てる活動を行います
- 5 水辺の環境と生き物を守る活動を行います
- 6 自然環境や生息・生育する生き物の調査研究を行います
- 7 野生生物との共生に向けた課題解決に取り組みます
- 8 自然体験を通して、地域の自然環境や伝統・文化の魅力を伝えます
- 9 清掃活動を通して、自然環境を守ります
- 10 地産地消を進め、地域の食材や木材などを積極的に利用します
- 11 生物多様性を意識した省エネルギー・省資源に取り組みます
- 12 生物多様性の理解につながる環境教育・環境学習を行います
- 13 生物多様性の保全活動を担う人材を育てます
- 14 イベントや講演会などをを行い、生物多様性の普及啓発を行います
- 15 生物多様性に関する情報を発信します

«オリジナル宣言項目»

企業・団体情報

企業・団体名	所属・役職・氏名
代表者役職・氏名	担当 電話
所在地	〒
HPアドレス	人
企業・団体概要 (150文字以内)	募集していない
札幌市	募集している
札幌市からの生物多様性に関する情報メール	布里する・布里しない
さっぽろエコメンバー	登録している・登録していない

188企業
28団体が宣言
令和7年10月現在

担い手育成 いきもの調査（札幌市）



実施期間

2024.5.18(土)-9.30(月)

調査の流れ

- ① 申し込み →
 - ② しらべる →
 - ③ 報告する →
 - 結果まとめ
- メール、ファックスまたは郵便でお申し込みください。「手引き」と「報告シート」、「ミニ図鑑」をお送りします（ホームページでも入手可）。
- 市内の大きな公園、山や水辺などで、調査対象の生き物をさがしてください。
- 「報告シート」に調査結果を書いて、ホームページから入力、またはメール、ファックス、郵便で事務局に送ってください。
- 参加者には、結果をまとめたニュースレターと記念品をプレゼント。ホームページにも結果を掲載します。



★ ホームページ

<https://www.city.sapporo.jp/kankyo/bioiversity/chosa/06chosa.html>



✉ 電子メール

sapporo-ikiimono@cho.co.jp
(事務局まで)



◆ カッコ先生公式X
@kakko_sensei

○さっぽろ生き物さがし事務局（さっぽろ自然調査館内）

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45山岸ビル3階
電話 011 (892) 5306 フax 011 (892) 5318 (担当: 藤邊・丹羽)

○主催 札幌市環境局 環境共生担当課

〒006-8611 札幌市中央区北2条西2丁目札幌市役所本庁舎12階
電話 011 (211) 2879 フax 011 (218) 5108

さっぽろ生き物ミニ図鑑

サケのなかまの見分け方

サケのなかまは、背びれの後ろの「あぶらびれ」とよばれる小さなひれが特徴。市内で見られるサケのなかまのうち、似ている4種の幼魚を比較。体の模様や背びれが見分けるポイント。

種類	特徴
ヤマメ (サクラマス)	パーマーク（楕円形の模様）がある。数は少なめ。 体の中央に、オレンジ色の線が入る。
アメマス	体全体に白い斑点が目立つ。 ※小さい個体にはパーマークがある。
ニジマス	パーマークがある。数は多め。 背中側には黒い斑点が目立つ。 背びれに黒い斑点がある。
オショロコマ	パーマークがある。数が多い。 オレンジ色のはん点が目立つ。 背中側には白い斑点がある。

♪豊平川の源流部などの渓流に生息。

ザリガニのなかまの見分け方

ハサミや頭の形が見分けるポイント。

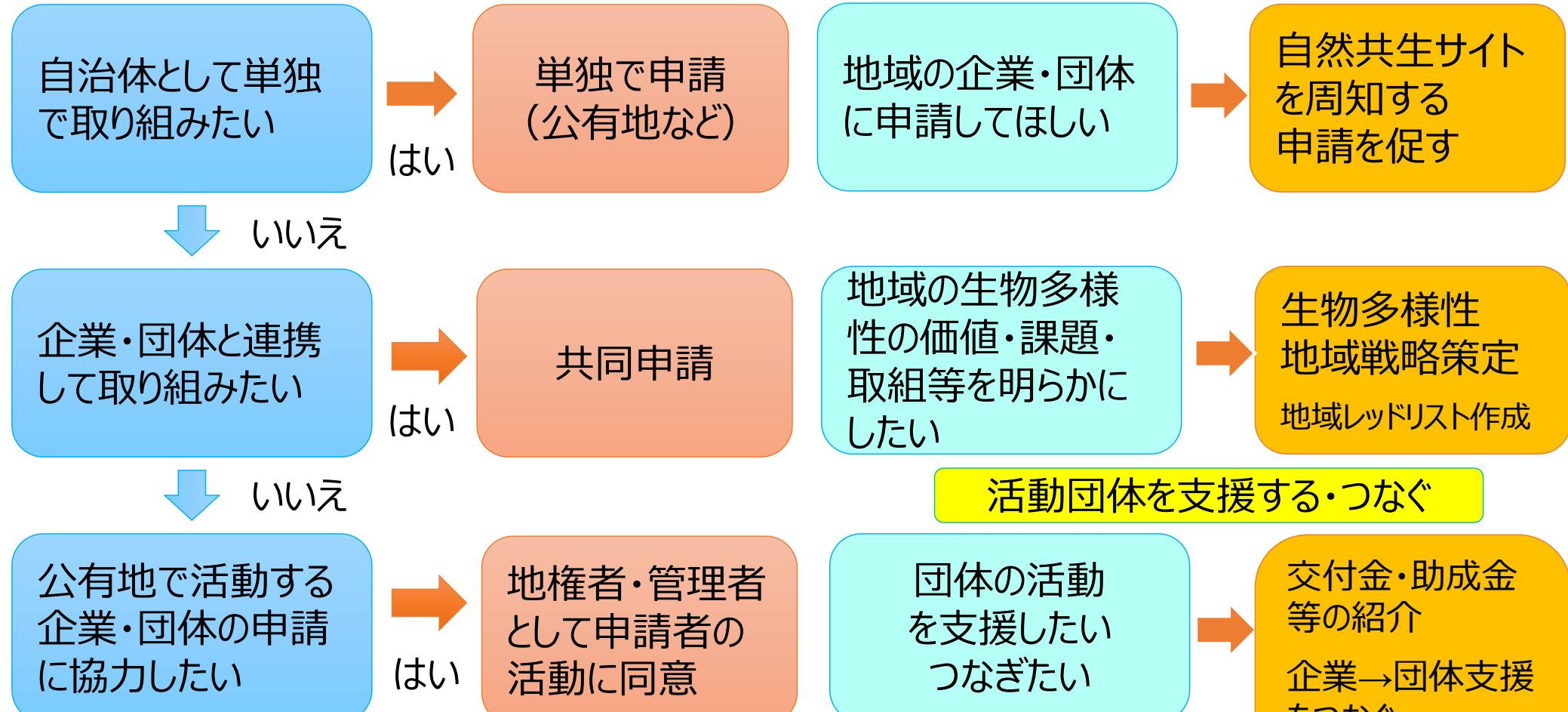
種類	特徴
ニホンザリガニ	はさみは太くて短い。
アメリカザリガニ	はさみは細長い。 トゲがある。
ウチダザリガニ	はさみは太い。 付け根は白い。

※全長 6 cm 程度。 ※全長 10 cm 程度。 ※全長 10 cm を超える。

※外来生物法に基づく「特定外来生物」に指定され、許可なく苟害や移動することは禁じられています。

自治体による自然共生サイトとりくみのまとめ

自然共生サイトを増やす



自然共生サイトのご相談はお気軽にどうぞ



環境省

活動のご相談は地方環境事務所へ

環境省地方環境事務所では、自然共生サイトの申請に係るサポートを行っています。

- ・目標の設定や活動手法の選定等に関する技術的な助言
- ・特例（自然公園法その他の環境省が所管するものに限る。）の活用に必要な手続について



北海道地方環境事務所	TEL 011-299-1953	釧路自然環境事務所	TEL 0154-32-7500
東北地方環境事務所	TEL 022-722-2876	関東地方環境事務所	TEL 048-600-0816
中部地方環境事務所	TEL 052-955-2131	信越自然環境事務所	TEL 026-231-6572
近畿地方環境事務所	TEL 06-6881-6504	中国四国地方環境事務所	TEL 086-223-1586
九州地方環境事務所	TEL 096-322-2433	沖縄奄美自然環境事務所	TEL 098-836-6400

自然共生サイト 総合窓口



独立行政法人

環境再生保全機構

Environmental Restoration and Conservation Agency

自然共生部



〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー
TEL:044-520-9543 E-mail:30by30@erca.go.jp

相談・受付について
(ERCAホームページ)